

最新・調査結果
から考える

高校生は今、

どう将来を思い描き、

進路選択しているか

テーマ① 今と未来

現在「幸せ」という高校生は8割超
強みも弱みも、デジタルの影響大

コロナ禍が続き、ウクライナ戦争や世界的な物価高などが日常生活にも影を落とした2022年。そのなかで自身を「幸せ」と思う高校生は81%と、14年調査時より増えている(図1)。「幸せ」の回答理由からは、「衣食住に困らない」「元気に生きている」など、今ある日常を幸福と感じている様子がうかがえる。一方、「幸せではない」の理由には、時間的・金銭的不自由、学習や人間関係の困難などが目立つ。また、両方の回答理由に「目標」や「夢」という言葉が散見され、その有無も幸福感を左右するようだ。

自分たちの世代ならではの「強み」については、1位の「インターネット・SNS」22%をはじめ、デジタル社会を反映

図1 現在の幸福感(全体/単一回答)

	幸せ・計		幸せではない・計		幸せ・計	幸せではない・計
	幸せだと思う	どちらかという幸せだと思う	どちらかという幸せではないと思う	幸せではないと思う		
2022年全体 (n=1,727)	37.9	42.9	8.0	6.2	51.1	80.8
2014年全体 (n=1,438)	25.8	50.1	10.9	8.5	46.6	75.9

【フリーコメント】 幸福感に対する回答の理由

幸せ	幸せではない
●衣食住に困らないから。夢を持つことができるから(1年・男子)	●学校がつまらない(1年・男子)
●やりたいことに熱中できているから(1年・男子)	●まだ、ちゃんとこれだという夢、達成したいものが決まっていないから(1年・女子)
●元気に生きているから(1年・女子)	●勉強が難しいと感じてるから(1年・男子)
●将来の目標があるし、つらいときがあっても話せる友人がいるから。(2年・女子)	●生活がかたつかただから(2年・女子)
●不自由のない生活だから(2年・男子)	●やる事が多く、息が詰まるから(2年・女子)
●家族がいて友達がいるから(2年・女子)	●少しコミュニケーションが心配で、たまに疎外感を感じるから(2年・男子)
●戦争がない国に住んでいるから(3年・女子)	●受験、家族、友人関係のストレス(3年・女子)
●好きな志望校を目指せる(3年・男子)	●将来が見えない不安があるから(3年・男子)

図2 自分たちの世代ならではの「強み」・上位5項目(自由回答)

2012年調査 (n=1,329)		2022年調査 (n=1,727)	
1位	IT・情報化社会・デジタルに強い 11.6%	1位	インターネット・SNS 22.0%
2位	若さ 5.4%	2位	IT・情報化社会・デジタルに強い 15.6%
3位	インターネット・ネット 3.3%	3位	情報の収集力・伝達力 5.8%
4位	柔軟性 2.3%	4位	諦めない・我慢強い・忍耐力 3.3%
5位	発想力 2.2%		
	自由がある 2.2%		
	ポストバブル・不況・不景気の経験 2.2%		
			世界的出来事(コロナ) 3.3%

図3 自分たちの世代ならではの「弱み」・上位5項目(自由回答)

2012年調査 (n=1,329)		2022年調査 (n=1,727)	
1位	ゆとり・ゆとり教育・ゆとり教育世代 25.0%	1位	コミュニケーション・会話が下手 9.7%
2位	学力・学習不足・知識不足・頭が悪い 8.6%	2位	SNS・インターネット依存 5.8%
3位	諦めやすい・我慢できない・忍耐力(がない) 3.5%	3位	経験不足(人生・社会) 4.7%
4位	打たれ弱い 3.4%	4位	コロナ影響 4.4%
5位	コミュニケーション・会話が下手 2.8%		
			読み書き・活字離れ・語彙力 4.4%

情報技術が発達し変化予測の難しい今を生きる、現代の高校生たち。自身の将来や進路については、どのような意識・価値観をもっているのでしょうか。「今と未来」「進学」「仕事」の各テーマについて、小社が数年ごとに実施している「高校生価値意識調査」の最新結果を基に探っていきます。

調査概要

「高校生価値意識調査2022」

- 調査目的：高校生の進学や仕事・将来のライフデザインに関する意識・価値観についての実態を把握し、高校生への理解を深めるための一助とする。
- 調査期間：2022年8月26日(金)～8月30日(火)
- 調査方法：インターネット調査(パネル「GMOリサーチ」)
- 調査対象：調査開始時点で高校1～3年生で、卒業後の進路として大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討している者(全国)
- 有効回答数：1,727人
分析を行うにあたり、「関東」「東海」「関西」「その他エリア」それぞれにおいて、文部科学省「令和3年度学校基本調査(確定値)」から調査対象の母集団の男女構成比を算出し、回収後の全体に占めるエリアの男女構成比についてウェイトバック集計により補正を行っている。

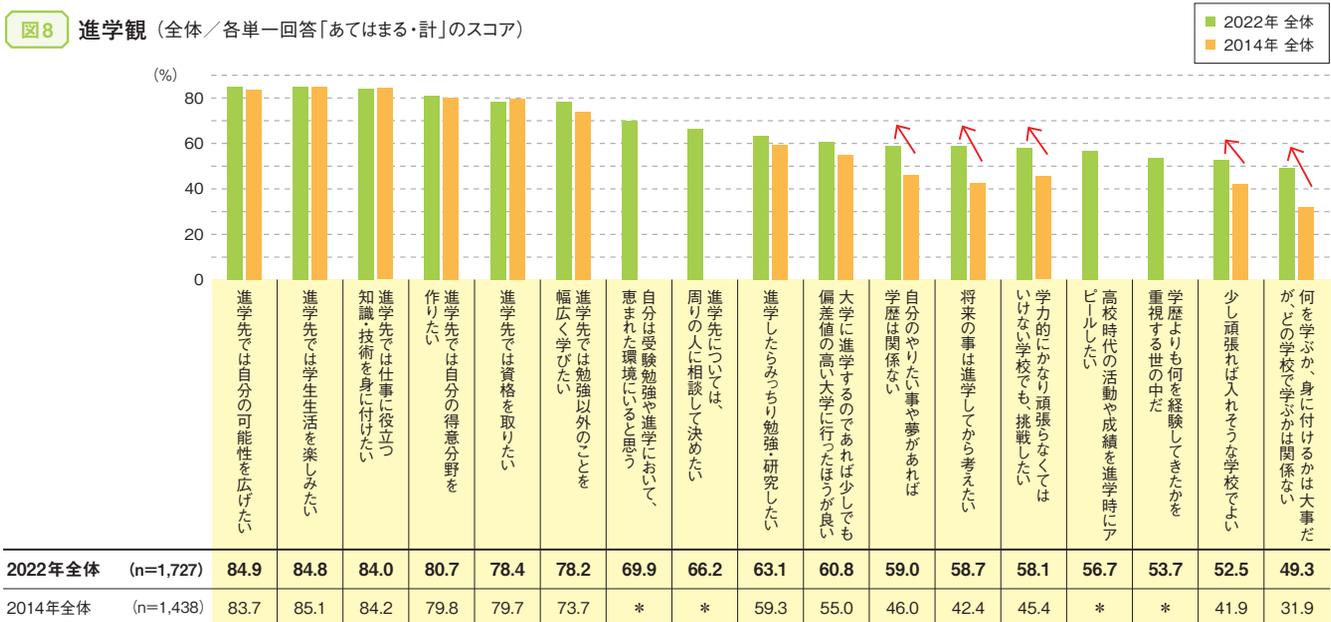
進学に対し幅広い期待感
「学歴よりやりたい事」が増加

まず、進学に関するさまざまな考え
方についての質問では、「自分の可能性
を広げたい」85%、「学生生活を楽しま
たい」85%、「仕事に役立つ知識・技術
を身に付けたい」84%など、多様な項
目が8割を超える(図8)。進学に対し、
勉強以外にも幅広い期待感をもってい
るようだ。14年と比べると、上位項目
に大きな変動はないが、10位以降では
「自分のやりたい事や夢があれば学歴
は関係ない」や「何を学ぶか、身に付け
るかは大事だが、どの学校で学ぶかは
関係ない」の大幅な増加が目立ち、学
歴や学校より、「やりたい事」を重視す
る方向性がうかがえる。

なりたいたい自分に向け努力する
「プロ突進タイプ」が増加

将来や進学に関する考え方への反
応を基に、高校生を8つのタイプ(進
学観タイプ)に分類した(解説)。その
構成比が最も高いのは、なりたいたい自分
に向けて努力する「プロ突進タイプ」で、
全体の32%を占める(図9)。次いで、
将来は進学してから考えたい「自分探
しタイプ」18%、偏差値で大学を選ぶ
傾向が強い「ブランド重視タイプ」13%、
夢はなく勉強も嫌いだがりあえず進
学しようという「未成熟タイプ」12%が

図8 進学観 (全体/各単一回答「あてはまる・計」のスコア)



※「2022年全体」の降順にソート/進学に関する上位17項目を抜粋/数値欄の*は該当年の調査なし

図9 進学観タイプの分布 (全体/クラスター分析によるタイプ分類)

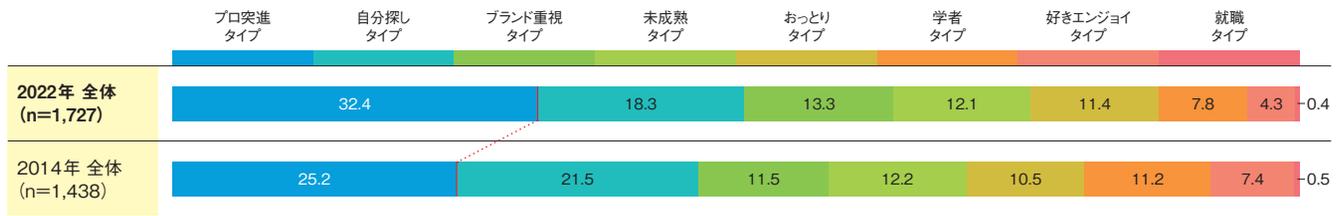
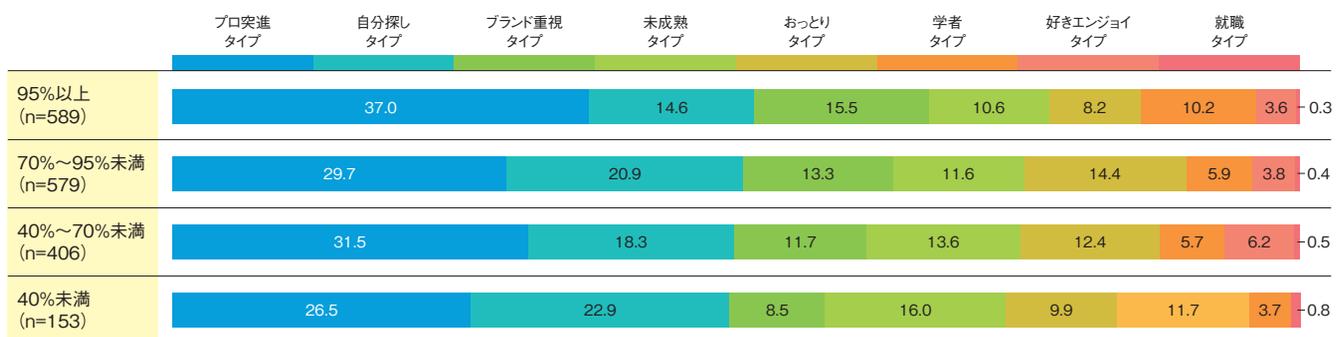


図10 進学観タイプの分布【在籍校の大学・短大進学率別】 (全体/クラスター分析によるタイプ分類)





「自分のあり方」を見つめるキャリア選択

高校生は今、どう将来を思い描き、進路選択しているか

高い。14年と比較すると「プロ突進タイプ」の増加が目立つ(25%→32%)。これを在籍校の大学・短大進学率別に見ると、「進学率95%以上」には「プロ突進タイプ」や「ブランド重視タイプ」が比較的多く、「進学率40%未満」には「プロ突進タイプ」がやや少ない(図10)。とはいえ、どの属性にも多様なタイプがいることは留意しておきたい。

クロス集計を用いて、進学観タイプの特徴をもう少し詳しく探ってみよう。まず、目標の有無とのクロス集計を見ると、「目標あり・計」の比率が【学者タイプ】は93%、「プロ突進タイプ」は84%と高いのに対し、「未成熟タイプ」は50%と低く、タイプによって大きな差がある(図11)。

また、現在の幸福感とのクロス集計では、「プロ突進タイプ」と「おっとりタイプ」は「幸せ・計」が87%前後と高い一方で、「未成熟タイプ」は58%と低い(図12)。

自分自身の将来の明るさとのクロス集計では、「プロ突進タイプ」は「明るい・計」が80%だが、「未成熟タイプ」は52%、「就職タイプ」は42%にとどまる(図13)。

幸福観や将来の明るさを感じている【プロ突進タイプ】が図9で見たように増加していることは、進路指導やキャリア教育を行う教員にとっては良い傾向といえそうだ。ただし、「未成熟タイプ」のように、目標をもてず幸福観や将来の明るさを感じにくい層への目配りや支援は欠かせない。

解説 進学や将来に対する考え方タイプの特徴

将来や進学に関する質問への回答を基に8つのタイプに分類

プロ突進タイプ
 になりたい自分に向けてあれこれ楽しみながら、成功をつかみたい
 自分の夢・興味を仕事にして、大きな成功や出世、富などのステータスを得ることを重視。進学後の学生生活を謳歌したい気持ちも強い。

自分探スタイプ
 まずは進学することが目標。
 将来はこれから考えていけばいい
 進学して勉強することへの意欲はある程度うかがえるが、将来の仕事や生き方についてはまだ具体的な希望がもてずにいる。

ブランド重視タイプ
 偏差値の高い学校に入って出世や富を手にした
 有名企業への就職や出世・富などのステータスを重視。真面目に勉強することや、自分の夢・興味を仕事にすることはあまり重視していない。

未成熟タイプ
 夢はなく、勉強は嫌い。
 とりあえず進学しよう
 叶えたい夢があるわけではない、勉強への意欲が低く、進学後にやりたいことも明確でないが、進学は希望している。

おっとりタイプ
 夢はあるが高望みはしない。
 そこそ楽しく生活できれば満足
 進学後は学生生活を謳歌し、将来は夢・興味を仕事にすることを希望。しかし、高望みせず適度に楽しく生活することを重視し、地位上昇志向は低い。

学者タイプ
 コツコツ勉強して得意分野をつくりその道の専門家に
 進学して真面目に勉強することや、仕事に役立つ知識・技能を身につけることに意欲的。その先に、夢の実現や大きな成功を思い描いている。

好きエンジョイタイプ
 進学して自分の可能性を広げ、好きなことを仕事にしたい
 進学先で自分の可能性を広げることや、自分の夢・興味を仕事にすることを意欲的。地位上昇志向は低いが、楽しく充実した生活を希望している。

就職タイプ
 進学する必要性は感じない。
 仕事をもって収入を得たい
 進学して学ぶこと、学生生活を楽しむことに対して関心が低い。自分の夢や興味を大切に仕事に就くことや、収入を得ることには前向き。

図11 「目標」としていることの有無【進学観タイプ別】(全体/単一回答)

	目標とすることがある	ある程度、目標としていることがある	考えたことはあるが、目標はまだない	考えたことがない
全体 (n=1,727)	46.1	30.1	18.1	5.8
プロ突進タイプ (n=559)	57.0	27.4	13.3	2.4
自分探スタイプ (n=316)	34.4	38.4	22.2	5.0
ブランド重視タイプ (n=229)	42.1	29.6	23.7	4.6
未成熟タイプ (n=209)	26.1	24.3	25.2	24.2
おっとりタイプ (n=197)	42.9	35.2	18.8	3.1
学者タイプ (n=135)	68.4	24.7	6.0	0.9
好きエンジョイタイプ (n=74)	52.2	28.6	16.3	2.9
就職タイプ (n=7)	32.9	24.8	42.3	

図12 現在の幸福感【進学観タイプ別】(全体/単一回答)

	幸せだと思う	どちらかというと幸せだと思う	どちらかというと幸せではないと思う	幸せではないと思う	考えたことがない
全体 (n=1,727)	37.9	42.9	8.0	6.2	5.1
プロ突進タイプ (n=559)	49.2	38.0	5.7	3.7	3.3
自分探スタイプ (n=316)	26.8	52.9	7.6	6.9	5.8
ブランド重視タイプ (n=229)	42.8	40.3	8.6	7.0	1.4
未成熟タイプ (n=209)	21.1	36.6	13.4	10.1	18.8
おっとりタイプ (n=197)	41.0	45.8	7.3	4.4	1.4
学者タイプ (n=135)	38.1	42.8	8.5	8.0	2.6
好きエンジョイタイプ (n=74)	24.5	54.9	10.0	8.1	2.5
就職タイプ (n=7)	29.0	43.5	12.6	14.9	

図13 「自分の将来」の明るさ【進学観タイプ別】(全体/単一回答)

	明るい	やや明るい	あまり明るくない	明るくない
全体 (n=1,727)	24.3	47.0	22.2	6.5
プロ突進タイプ (n=559)	36.5	43.7	15.1	4.7
自分探スタイプ (n=316)	11.8	54.4	27.6	6.2
ブランド重視タイプ (n=229)	22.8	50.9	21.6	4.7
未成熟タイプ (n=209)	16.9	35.4	35.7	12.0
おっとりタイプ (n=197)	19.2	53.1	19.5	8.2
学者タイプ (n=135)	27.8	48.3	18.4	5.6
好きエンジョイタイプ (n=74)	18.3	45.0	30.1	6.7
就職タイプ (n=7)	25.1	16.5	27.1	31.3

仕事には金銭面だけでなく
自分の幸せ、やりがいも重要

将来、仕事をもって働く目的についてはどう考えているか。最も多いのは「金銭的に豊かな生活をするため」57%で、「自分自身の幸せ」47%、「やりたいことの実現」46%なども半数近く回答している(図14)。

また、「いい仕事」とはどのような仕事をイメージしているかについては、最多は「収入が高い」59%で、「やりがいを感じられる」47%、「安定している」45%が続く(図15)。

これらの質問の最多項目からは、社会の経済的な不安を反映してか金銭的安定への期待感がうかがえる。しかし、ほかに多様な回答もあがっていることから、仕事をするうえで重要なのは金銭面だけではないようだ。

自分を大切にしながら
安定と自由を求める傾向

就職・仕事のさまざまな考え方にについて、当てはまるとの回答が50%を超えた項目を抜粋して、種類別にグラフにした(図16)。まず、仕事内容に関する項目を見ると、最も多いのは「自分がやりたくない・自分に合わない仕事はしたくない」84%、次が「自分が成長できる仕事がいい」81%と、自分を軸にした考え方が上位に並ぶ。14年と

の比較では、「身近な人の役に立つ仕事がいい」「社会貢献ができる仕事がいい」など他者への貢献や、「仲間と作り上げる仕事がいい」「チームで働ける仕事がいい」など協働に関する項目が増加している。

収入・雇用に関する項目のなかでは「収入や雇用が安定している仕事がいい」80%が最も多い。14年と比べると「一度やめても、復職できるような仕事がいい」が増加。安定を一層重視する傾向が見える。

働き方に関する項目のなかで最多は「自分の時間も大事にして働きたい」83%だ。ほか、「家族との時間も大事にして働きたい」79%、「場所や時間が自由に決められる働き方をしたい」71%なども多く、時間や場所に縛られない自由を求める様子がうかがえる。

今回の結果からは、わずか10年足らずの間にも、高校生の意識・価値観が確実に変化していることが見えてきた。特に、夢や目標をもつことやそれを実現させることなど、自分をより重視する傾向がさまざまなところで浮き彫りになったのが、大きな特徴だ。

高校生の意識・価値観の変化には、社会環境の変化のほか、各校の探究活動やキャリア教育の充実を反映している可能性がある。今後、多様な高校生の意識・価値観の理解を基に、一人ひとりの明るい将来に向けた支援の一層の充実が期待されている。

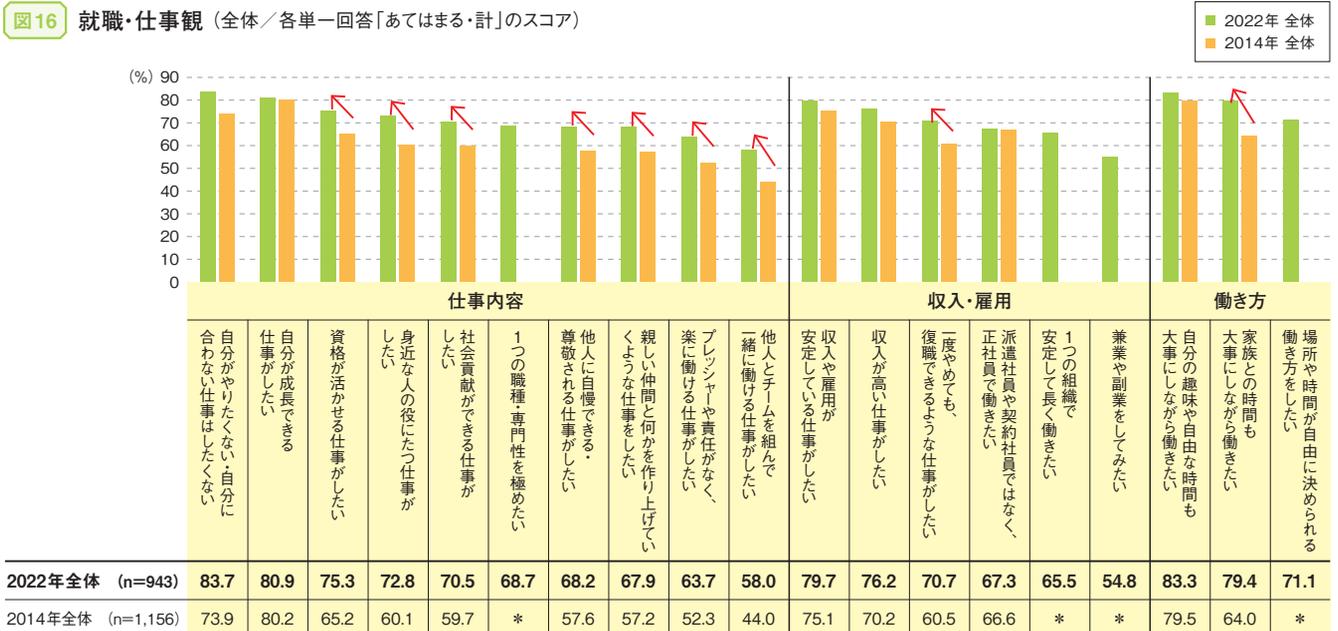
図15 「いい仕事」のイメージ・上位5項目 (全体/複数回答)

1位	収入が高い	58.8%
2位	やりがいを感じられる	47.4%
3位	失業する可能性が低く、安定している	45.4%
4位	人気のある職種・会社である	24.0%
5位	人に自慢できる	23.4%

図14 将来「仕事をして働く」目的・上位5項目 (全体/複数回答)

1位	金銭的に豊かな生活をするため	57.1%
2位	自分自身の幸せのため	46.8%
3位	やりたいことを実現するため	46.3%
4位	人の役に立つため	37.0%
5位	家族を養うため	27.4%

図16 就職・仕事観 (全体/各単一回答「あてはまる・計」のスコア)



※設問の種類別に降順ソート/スコアが50%以上のみ抜粋/数値欄の*は該当年の調査なし